P&I保険セミナー開催

最新マーケット情報を提供

JEIBジャパン アーサー・J・ギャラガー

JEIBジャパンと世界的なP&I保険ブローカーのアーサー・J・ギャラガーは10月18日、東京都千代田区の「フラクシア（丸の内オアゾ北口ビル）」でP&I保険セミナーを開催した。船主を対象に実施したもので、アーサー・J・ギャラガーのP&Iマーケットの専門家や各P&Iクラブの代表者がマーケットの最新情報を提供した。当日は、海運企業の社員など約40人を含め70人ほどが参加した。

セミナーの冒頭、JEIBジャパンの小田洋社長があいさつし、「2016年に当社とアーサー・J・ギャラガーが協力して初開催した当セミナーは、最新のP&Iマーケットの情報提供を目的としており、今回で3回目となる。海外のP&Iマーケットでは船主の90%がブローカーを活用する一方、日本ではまだ、ブローカーが船主の皆さまのお役に立てていない状況だが、現在、マーケットはハード化に向かっており、今こそ私たちがお役に立てる状況が来ている。船主の皆さまにはぜひ、本日のセミナーを参考にしていただくとともに、P&Iブローカーを活用いただければと思う」と述べた。

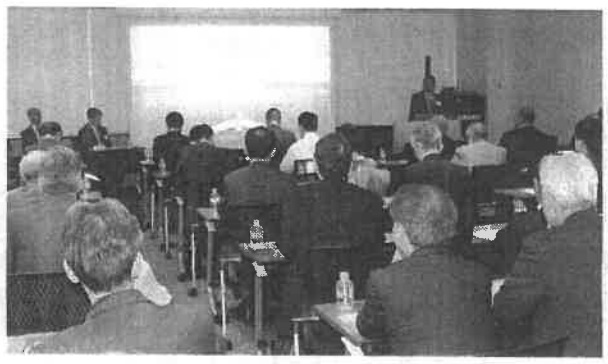
小田社長

マルコム・ゴドフレイ氏

第1部は、各P&Iクラブが情報提供のためのプレゼンテーションを行った。ガード・ジャパンは、P&Iマーケットの現状や国際P&Iグループ協定の概要、P&Iクラブ間での差別化のポイントなどについて解説した。

ジャパンP&Iクラブは、同クラブが日本でトップシェアを維持している理由として、事故対応力、運航サポート、勉強会・セミナー活動といった強みについて説明。とりわけ事故対応力では、「私たちに船主の皆さまが求めているのは、事故が発生した際にどのような対応ができるのかだと思う」として、①日本語による初期連絡のしやすさ②経験豊富な担当者・専門家③豊富な情報④事故解決力―の四つの特長を紹介した。

UKP&Iクラブは、「Collision with fishing boat and Loss Prevention」をテーマに講演し、漁船衝突による海難事故の統計や特徴、同クラブのロスプリベンション活動について、事故事例を交えながら紹介した。


約70人が参加した

スチームシップ・ミューチュアルは、「Intelligent Underwriting in the digital age」と題して発表。テクノロジーを使った新たなアンダーライティング手法の導入による効果やP&Iクラブがそれに対してどのように適応しているか、また、近年の海運企業とP&Iクラブの関係の変化について解説した。

各P&Iクラブがプレゼン実施

マーケットでの競争が激化し続けた結果、格付会社からネガティブや格下げの評価を受けるクラブが出るなどして合併の可能性が高まるシナリオを提示した上で、今後を左右する要因として、海運市場や投資収益、クレームの状況の他、世界の気候や経済、米国と中国の貿易戦争、ドナルド・トランプ米国大統領の再選、ブレグジット、米国によるイラン、ベネズエラや他の国への制裁といった国際情勢を挙げた。

最後に、JEIBジャパンとアーサー・J・ギャラガーが船主に提供できる価値として、最も競争力のある保険料率水準や顧客との長期的なリレーションシップ、長期的な戦略のプランニング、24時間365日のサービスなどを挙げた上で、「船主、ブローカー、P&Iクラブの3者が同じ側に立って信頼関係で結ばれていることが私たちにとっての差別化となる」と述べた。

全セッション終了後には、会場を移して懇親会が行われ、船主、P&Iクラブ、P&Iブローカーで交流を深めた。この他、ノース・オブ・イングランドP&Iクラブがプレゼンテーションを行った。

休憩を挟んだ第2部では、アーサー・J・ギャラガーの代表を務めるマルコム・ゴドフレイ氏とディビジョン・ダイレクターのウェイン・ゴドフレイ氏による基調講演が行われ、最新のマーケット情報や来年度の契約更改の見通し、今後3年間の動向などが紹介された。

ウェイン・ゴドフレイ氏は、3年間の予測について、多くのP&Iクラブで増収基調となり、クラブ同士の合併の可能性が低下するシナリオと、

損保ジャパン日本興亜

自動運転バス実証実験に参画

安全な運営のためのサポート提供

損保ジャパン日本興亜は、自動運転ソフトウエアを開発するPerceptIn社（本社：香港）の日本法人であるPerceptIn Japan合同会社（本社：東京都千代田区、以下、パーセプティン）と㈱マクニカ（本社：神奈川県横浜市）が国営平城宮跡歴史公園（奈良市）で実施する自動運転バスの社会実験に参画する。

パーセプティンとマクニカは、自動運転バスの「マイクロ・ロボットタクシー」（注）を活用したモビリティサービスの社会実験を行う。本社会実験では、来園者の回遊性、アトラクションとしての集客性、公園サービスの事業性やモビリティサービスにおける社会受容性の検証を行う。

実験に使用する
マイクロ・ロボットタクシー

損保ジャパン日本興亜は、自動運転バスの社会実験に参画することで、「安心・安全で豊かな自動運転社会」の実現に向け研究をさらに加速させ、自動運転技術の社会実装に貢献していくとしている。

（注）最寄駅と自宅間のラストマイル、地域住民の生活の足、観光スポット間の移動など、公共交通や既存の交通手段を補完する新しいコンセプトのマイクロモビリティ。

交通事故における医療費・施術費問題［第3版］

江口 保夫　江口 美葆子　古笛 恵子　共著

交通事故被害者の医療費・施術費問題の13年ぶり改訂版。
平成23・25年1点10円新判決をはじめ
消費者契約法や健康保険を巡る問題を解説

ISBN978-4-89293-415-5
●B5判・244頁　●定価（本体3,600円＋税）／送料450円＋税　（2019年5月刊）

著者略歴
●江口　保夫（えぐち・やすお）
昭和24年中央大学法学部卒業
昭和27年弁護士登録、東京弁護士会所属
●江口　美葆子（えぐち・みほこ）
昭和23年明治大学法学部卒業
昭和27年検事任官、
昭和30年検事退官、弁護士登録、東京弁護士会所属
●古笛　恵子（こぶえ・けいこ）
平成元年中央大学法学部卒業
平成5年弁護士登録、東京弁護士会所属

お申込みはFAXまたはWebで　FAX 03-3865-1431　http://www.homai.co.jp　保険毎日新聞社　東京都千代田区岩本町1-4-7　TEL 03-3865-1401